

2022 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科目区分 | 統合分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|--|---------|-----------------|--|---|---|---------------|
| 科目名 | 医療安全 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対象学年 | 3年次 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 各教室 |
| 担当教員 | 石飛和歌子 他 | 実務経験と その関連資格 | 島根大学医学部附属病院GRM | | | |
| 《授業科目における学習内容》 1. 医療・看護行為、医薬品、医療器具、患者に存在する危険を認識する能力をもつ重要性を理解し、「してはならないこと」と「すべきこと」、またその根拠・理由も含めて医療安全の観点を学ぶ。 2. 看護事故の構造分類から事故防止の考え方、事故の発生要因とその防止について学ぶ。 3. 安全対策の基礎的知識を理解する | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 筆記試験(70%)、授業・演習態度(20%)、小テスト(10%)で評価する | | | | | | |
| 系統看護学講座 別巻16 医療安全 医学書院 医療安全ワークブック 川村治子 医学書院 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 授業1回あたり1時間から1時間30分の授業外学習(事前課題、予習、復習)が前提です。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 医療や看護援助には常に危険が伴うことを認識し、安全意識の向上と事故防止の視点を養って欲しい。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | ヒューマンエラーの定義、間違い、エラーを起こすメカニズムについて説明できる。医療安全を学ぶことの必要性について説明できる | PC プロジェクター | 教科書を事前に読んで予習しておくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療安全を学ぶことの意義・人はなぜ間違いをおこすのか・意識水準の変動と医療安全を学ぶことの意義・人間の3つの行動モデルと医療安全を学ぶことの意義・看護職を選ぶことの重さと安全努力の責務 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 医療事故の定義、医療事故における過失について説明できる | ビデオ (患者確認は安全管理の第一歩) PC プロジェクター | 前回授業内容に係わる小テストをするので復習しておくこと 指定した教科書を事前に読んでおくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療事故とは・医療行為との関連 事故の視点での看護業務の理解 | | | |
| 第3回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 患者ケアにおいて起こりうる事故・ヒヤリ・ハットを理解し、実習で気をつけるポイントについて説明できる | GW用A4用紙 PC プロジェクター | 前回授業内容に係わる小テストをするので復習しておくこと 実習中に経験したヒヤリ・ハットと事故防止についてまとめておくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | GW「病院実習を通してわかった感じた医療安全」 学生が経験したヒヤリ・ハットについて意見交換し、事故防止について考える | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護事故の構造について説明できる | PC プロジェクター | 指定した教科書を事前に読んでおくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 看護事故の構造・看護事故における事故防止の視点 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護事故防止の考え方について説明できる | PC プロジェクター | 前回授業内容に係わる小テストをするので復習しておくこと 指定した教科書を事前に読んでおくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 看護事故防止の考え方 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|--|-------------------------------------|---|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 投与業務の特性からみた事故防止の視点について説明できる | ビデオ(与薬を安全に実施するために) PC、プロジェクター | 前回授業内容に係わる小テストをするので復習しておくこと 指定した教科書を事前に読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 患者に投与する業務における事故防止(総論) | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 注射業務の特性と業務プロセスにおける事故防止について説明できる ポンプ関連の事故の危険性について説明できる | ビデオ(輸液ポンプの安全使用) PC プロジェクター | 前回授業内容に係わる小テストをするので復習しておくこと 指定した教科書を事前に読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 患者に投与する業務における事故防止(注射業務) 注射業務に用いる機器(輸液ポンプ・シリンジポンプ関連)での事故 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | ABO不適合輸血がなぜおこるのか、看護業務の視点から理解し、輸血事故防止のための注意点を述べることができる | ビデオ(輸血を安全に実施するために) PC プロジェクター | 前回授業内容に係わる小テストをするので復習しておくこと 指定した教科書を事前に読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 輸血業務と事故防止 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 内服と薬業務における危険性、および経管栄養業務においておこりうる事故について理解し、事故防止について説明できる | PC プロジェクター | 前回授業内容に係わる小テストをするので復習しておくこと 指定した教科書を事前に読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 内服薬と薬業務と事故防止 経管栄養注入業務と事故防止 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | チューブ管理における事故の発生要因と防止の考え方を述べることができる | PC プロジェクター | 前回授業内容に係わる小テストをするので復習しておくこと 指定した教科書を事前に読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | チューブ管理と事故防止 | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 転倒・転落の発生構造と事故防止の考え方について説明できる | PC プロジェクター 演習資料 | 前回授業内容に係わる小テストをするので復習しておくこと 指定した教科書を事前に読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 転落転倒事故防止 | | |
| 第12回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 誤嚥・異食・入浴中の事故防止について説明できる 事例を振り返り、発生要因や事故防止対策を考えることができる | PC プロジェクター | 前回授業内容に係わる小テストをするので復習しておくこと 指定した教科書を事前に読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 誤嚥事故防止・異食事故防止・入浴中の事故防止 演習(インシデントKYT) | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | さまざまな業務における患者間違い、多重課題、タイムプレッシャー、業務中断、新人特有の行動パターンについて説明できる。事故の未然防止上重要なコミュニケーションについて説明できる。 | PC プロジェクター | 前回授業内容に係わる小テストをするので復習しておくこと 指定した教科書を事前に読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 医療安全とコミュニケーション | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 職業感染予防、抗がん剤暴露防止、放射線被曝防護について説明できる。 組織的な安全管理体制の考え方について述べるができる。 | PC プロジェクター | 前回授業内容に係わる小テストをするので復習しておくこと 指定した教科書を事前に読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 看護師の労働安全衛生上の事故防止 組織的な安全管理体制への取り組み | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | これまでの医療安全対策の概要について説明できる | PC プロジェクター | 前回授業内容に係わる小テストをするので復習しておくこと 指定した教科書を事前に読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療安全対策の国内外の潮流 | | |